

ひとつながりのいえ

1130109 中川麻美

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

婚姻や家族のあり方などに関する個人の価値観が多様化し、離婚件数の増加等により近年「ひとり親世帯」が増加している。さまざまな悩みや問題を抱えたひとり親世帯が、誰にも相談できず悩みを抱え込んだり、世間から隔離されることなく安心して生活を送れる集合住宅を提案する。

Key Word: ひとり親世帯 つながり 螺旋 ワンルーム

1. 背景

■増加するひとり親世帯

近年、婚姻や家族のあり方などに関する個人の価値観が多様化する中、離婚件数の増加等により母子世帯あるいは父子世帯といった「ひとり親世帯」が増加している。ひとり親世帯の多くは、さまざまな悩みや問題を抱え、近くに相談ができる人が欲しいと感じている。

■閉鎖的な母子生活支援施設

現在、ひとり親世帯の自立支援のために母子生活支援施設（母子寮）というものがあるが、さまざまな理由により、母子寮と職場、母子寮と学校といった一定の場のみでしか外部の人との接点がなく、世間から隔離されたものになってしまっているケースがある。

こうした背景から、気軽に相談や情報交換等の交流ができる空間をつくることで、ひとり親世帯という同じ境遇にいるもの同士、互いに支えあったり、精神的な負担を和らげることができる場があればと思ったのが計画の動機である。

2. コンセプト

現在ある母子生活支援施設とは違い、開放的で、住んでいる人や地域の人ともコミュニケーションがはかれる、ひとり親世帯のための集合住宅を提案する。

3. 敷地

敷地は高知県高知市東秦泉寺にある空き地を対象とする。県道44号線を少し北に入ったところに位置し、敷地周辺に保育園や学校、病院等の施設、バス停等がある。

敷地周辺は住宅や畑であり、車の通りが少なく、幼い子どもがいる家庭でも安心して暮らせそうだと感じた。



0 10 50 100m

対象敷地 S=1:4000



写真 1. 現況

4. 全体計画

■つながりを意識した計画

集合住宅そのものの形が一つながりになる計画を行う。また、親と子ども、ひとり親世帯同士、地域住民といった、人とのつながりを意識した計画を行う。

■ひとり親世帯に合わせた計画

1階に託児所兼学童保育を配置することで、親が帰宅するまでに宿題等の面倒をみてもらえ、また、親が急な仕事のとき等にも子どもを預けられるようにする。

4-1. 二重螺旋

一般的な集合住宅は、一軒一軒が廊下でつながりそれが積層され、各階が階段でつながっているのに対し、今回はつながりを強調するため、1~4階までを螺旋状につなげた。この際、敷地の東側と西側に道路があるため、どちらからでもアクセスできるように考えた。普通の螺旋状だと、一方向からしかアクセスできないため、二重螺旋とし、東側と西側の二方向からアクセスできるようにした。

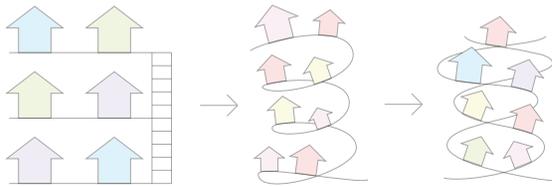


図 4-1-1 ダイアグラム 1

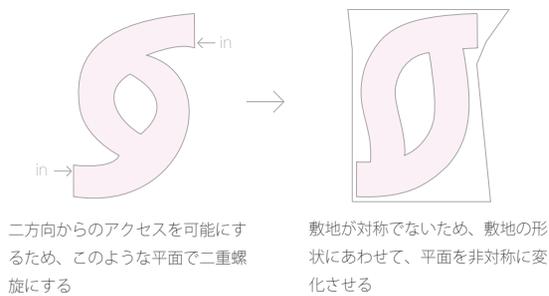


図 4-1-2 ダイアグラム 2

4-2. ドーナツ型ワンルーム

大抵のひとり親世帯は、親が仕事に行っている間、子どものみで日常を過ごしている。親と過ごせるわずかな時間は、なるべく一緒にいられるようにと考え、個室を壁で仕切るのではなく、全室ドーナツ型のワンルームで、段差によって空間を使い分けるようにした。

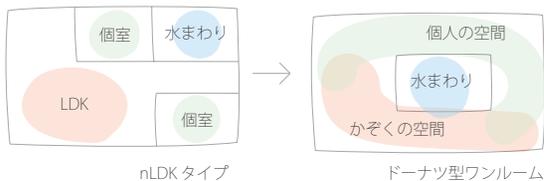


図 4-2-1 ダイアグラム 3

4-3. バルコニー

各室の間は共有のバルコニーとし、バルコニー側から部屋に入るようにすることで、隣人とのコミュニケーションがはかれるようにした。

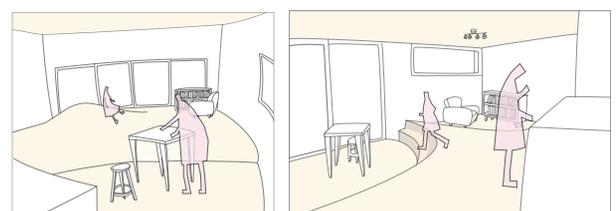
4-4. 中庭

中庭を設け、隣人や地域住民とコミュニケーションがはかれるようにした。

5. 図面 写真 パース



写真 2. 模型写真



内観パース